

## 令和7年度 第1回港区区政会議 全体会 議事録

1 日 時 令和7年7月3日（木） 午後7時～

2 場 所 港区土地区画整理記念・交流会館 7階 港区民ホール

3 出席者（委 員）対面：井本委員、ヴィダル委員、牛島委員、大平委員  
上濱委員、北山委員、後藤委員、武内委員、疊谷委員  
鳥取委員、中西委員、西川委員、西村委員、平尾委員  
丸岡委員、村田（烈）委員、村田（宗）委員、  
森岡委員、山岸委員、山田委員

（市会議員）対面：西議員、藤田議員

（市 民 局）対面：宮之前多文化共生担当課長

（港区役所）対面：山口区長、磯村副区長、菅原総務課長

武内総合政策担当課長、五十嵐協働まちづくり推進課長

今田エリア開発推進担当課長、村上教育担当課長

宇野保健福祉課長、山崎保健・子育て支援担当課長

吉川生活支援担当課長、扇谷窓口サービス課長

前田総合政策担当課長代理

4 議 題 意見交換「How to 多文化共生のまちづくり

外国人住民とともによりよい地域をつくる」

○前田総合政策担当課長代理 皆さまこんばんは。定刻となりましたので、ただいまより、令和7年度第1回港区区政会議の全体会議を開催させていただきます。各部会に続きまして、本日も全体会議にお集まりいただきありがとうございます。私は総務課総合政策担当課長代理の前田です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は区役所の空調の不具合により、急遽会場の変更となりまして申し訳ございませんでした。また、本日の配付資料については、それぞれの説明の際に確認させていただきます。それでは、会議に先立ちまして、副区長の磯村よりご挨拶を申し上げます。

○磯村副区長 皆さまこんばんは。さきほどもありましたが、先週のそれぞれの部会に引き続きまして、本日もご参加ありがとうございます。皆さまご承知のとおり、区政会議の委員の任期は2年で9月末までということですので、今回満了される方々もおられると思います。例年のスケジュールですと、今日の全体会が、このメンバーでは最後の会議となりますので、区長の山口には総括も含めて最後に出ていただこうと思っておりまして、まずはわたくしから一言ご挨拶を申し上げます。

ご存じのように、今年港区制100周年を迎えました。お隣の此花区では万博が大変にぎわっております。万博がこれほど身近で行われるということは、もうないと思いますので、ぜひ、港区民の皆さまには、この機会に何度でも足を運んでいただいて、世界と未来をご体験いただければと思っています。港区制100周年記念としましては4月に記念式典を開催しましたが、7月からは港区万博として、万博最終日の10月13日まで、

今日チラシありますけれども、デジタルスタンプラリーを開始しています。区民の方に募集した 43 カ所の区内の一押しスポットですね、それを巡っていただくと抽選で素敵な景品が当たりますので、沢山の方々に参加していただきたいと思っています。今日お帰りになられたら、お近くの方、ご宣伝していただきたいと思います。

さて区政会議ですけれども、これまでを振り返りますと、区のさまざまな施策に対する評価のほか、町会加入の促進や防災対策、また青少年の健全育成にかかる活動についてなど、色々なテーマについて、委員の皆さまと一緒に意見交換をさしていただいて議論を重ねてきました。わたくしたち、区役所職員は、港区民が主役の区政、まちづくりを目指して、日々業務に取り組んでおりますが、この区政会議での、港区で暮らす皆さま、活動する皆さまの率直な意見やご議論からは、港区政やまちづくりに対する大きなヒントと力をいただいております。なにぶん役所のことですので、課題の解決に時間がかかったり、実現が難しかったりする場合もあるんですけれども、皆さまの課題提起や素朴な疑問こそが、住民と行政が同じ方向を向いて、より良い区政、まちづくりを進める第一歩になると思っています。それでは限られた時間ではございますが、本日は活発な意見交換をどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○前田総合政策担当課長代理 それでは、現在の出席状況をご報告させていただきます。区政会議につきましては、委員定数の 2 分の 1 以上の出席により、成立すると規定されており、現在、委員定数 25 名のところ 18 名の皆さまにご出席いただいておりますので、

有効に成立していることをご報告いたします。また、本日の会議は公開とします。会議の様子を動画撮影し、港区役所の YouTube アカウントにて後日一定期間掲載させていただくほか、議事録も公開するため、録音もいたします。全体での進行のご発言の際は、必ずマイクをご使用していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。会議中少しでも体調が優れないようなことがございましたら、遠慮なくおっしゃってください。次に条例第 8 条において「市議員は区政会議における議論に資するために必要な助言をすることができる」と規定されており、本日は、西議員、藤田議員にご出席いただいておりますことをご報告いたします。では、ここからの進行はヴィダル議長にお願いいたします。

○ヴィダル議長 皆さんこんばんは。議長のヴィダルです。よろしくお願いいたします。ここからの進行役をつとめさせていただきます。まず初めに本日の進め方について区役所より説明をお願いいたします。

○武内総合政策担当課長 皆さんこんばんは。わたくし総合政策担当課長の武内と申します。どうぞよろしくお願いいたします。では、本日の会議の流れについてご説明申し上げます。内容といたしましては、大きく前半と後半の 2 つに分かれます。前半は先週開催された各部会で交わされたご意見と回答に関して、補足の説明を行ったのち、次に委員の皆様から事前に書面でいただいたご意見・ご質問への回答を説明いたします。後半は多文化共生のまちづくりをテーマに取り上げ、意見交換を行います。今回、大阪市の多

文化共生推進を担当しております、市民局ダイバーシティ推進室から宮之前課長にお越し  
しいただいておりますので、外国人住民の推移や、港区内、南市岡地域などのモデル事  
業について説明を受け、動画をご覧ください。その後、20分程度、各部会ごとでテ  
ーマに関して、お住まいの地域の状況ですとか、普段取り組んでおられることなどを話  
していただき、最後に全体で共有してまいりたいと考えております。限られた時間ではあ  
りますが、分かりやすい説明に努めますので、ぜひ本日ご参加の皆様にとって、実りの  
ある会議となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○ヴィダル議長 ただいまの説明、ご質問などございますでしょうか。特にないよう  
でしたら、次に進めさせていただきます。それでは次に、部会で出された主なご意見と当  
日の回答について、当日配付資料⑤および⑥について、区役所から一括して説明をお願  
いいたします。

○武内総合政策担当課長 はい、引き続きまして総合政策担当課長の武内です。本日机  
の上にご用意しております資料のうち、資料⑤、A3サイズの両面印刷されているものを、  
お手元にご用意いただけますでしょうか。こちらがですね、先週行われた3つの部会で  
当日にいただいたご意見と、それに対する区役所からの回答をまとめて載せております。  
それぞれの部会で積極的にご意見・ご発言をいただきまして、ありがとうございました。  
実はですね、この中で本日皆さんに補足でご説明申し上げたい項目がございます。資料  
⑤の2枚目の表面「安心安全・まちづくり部会」の2番。少し色を変えて網かけしてい

る項目をご覧くださいませでしょうか。会議に先立って、港区の運営方針をご覧ください  
いた委員さんから「令和 6 年度アウトカム指標がすべて未達成になっているけれども、  
区役所がどんな取り組みをしているかが、資料から読み取れない。区としてさまざまな  
取り組みをされていると思うが」というご意見ご指摘を頂戴いたしました。右側当日の  
回答に書いてありますとおり、この運営方針は大阪市 24 の区役所、および建設局や水道  
局など、大阪市のすべての組織で毎年度定めているものなのですが、見やすくわかりや  
すい資料となるよう、かなりシンプルなフォーマットに統一されております。この理由  
は、以前は各局各区で事細かく事業の課題や社会的背景、具体的な取り組みや目標など、  
すべてをのせる様式となっており、あまりに細かくて見づらいという声を受けて、大胆  
に簡素化された経過がございます。しかしながら、委員からご指摘のあったとおり、こ  
のフォーマットでは具体的な事業・施策がわからないため、港区では各経営課題におい  
て、どのような取り組みをしているのか、運営方針と併せてホームページに公開してお  
ります。本日資料⑤の後に資料⑥といたしまして、参考に令和 7 年度の港区運営方針と、  
その後ろに港区が運営方針と併せてホームページで公開しております具体的取り組みを  
のせた資料をご用意いたしました。今画面に映っているものですね。共通様式は大阪市の  
すべての組織が公表しているんですけども、港区では独自に、港区が掲げる目標を  
どのような施策を展開することで達成していくのか、というのを、このような形で取り  
まとめて公開しておりますので参考に紹介させていただきます。この度は貴重なご指摘・

ご意見をありがとうございました。こちらが部会で出された主なご意見と当日の回答で、補足で運営方針の具体的取り組みについて改めてご説明申し上げます。以上でございます。

○ヴィダル議長　ありがとうございました。ただいまの説明でご質問などございますでしょうか。ないようであれば、当日配付資料⑦「事前意見内容と区役所の対応・考え方」の全体会の部分の説明を区役所からお願いいたします。

○武内総合政策担当課長　総合政策担当課長、武内です。前半最後の項目になります。同じく資料⑦で A3 サイズの両面に印刷されているものをご覧ください。委員の皆さまから会議に先立って書面でいただきましたご意見・ご質問につきまして、各部会に関する項目は、すでに先週行われました各部会において、区の対応や考え方を説明させていただいております。ほかの部会のものについては、ご参考にご覧になっていただければと思います。本日は、各部会で説明を行っていない、網掛けされている3つの項目。これについて簡潔にご紹介いたします。

まず、1項目め。救急搬送について「万博開催以降、救急車の到着に時間を要しているのではないか」というご意見をいただきました。わたくしどもから消防局に確認いたしましたところ「昨年の同時期と比べ大きな変化はない。また熱中症などによる需要の増大に対応出来るよう、臨時で救急隊を増やし体制を整えている」という回答をいただいておりますのでご紹介いたします。

次に2項目め。そのすぐ下ですね。令和6年度 港区運営方針の自己評価のうち、目標、使命に記載された内容に関して2つの質問をいただいております。1つ目は「人口増を目指す」とあるが、万博開催前と今との比較。また今後の想定は」という質問です。こちらですね、大阪市が公表しております、推計人口データで、今年の6月と昨年の6月の港区の人口を比較いたしますと、約800名増えております。また今後、2030年に予定されているIR開業に伴い、およそ1.5万人の新たな雇用が想定されることから、夢洲へのアクセスの良い港区において、今後も住む人が増えていくものと見込んでおり、また実際に港区を選んで住んでいただけるように、関係先へ働きかけも行っているところです。

同じ枠の中で2つ目「水辺の特性や公園のポテンシャルという記載が具体的に何を指すか」という質問ですが、わたくしどもとしては港区における水辺は、大都市大阪の経済活動と結び付いた港湾機能を有していること。港が西に開けていることから美しい夕陽を見られることなどが、港区ならではの水辺の特性と認識しております。なお、公園に関しては、都市において貴重な緑の空間であり、コミュニティ活動の場として、また災害時には避難場所として機能するなど、こどもの遊び場だけでなく、幅広く活用されることを指し「ポテンシャル」と表現しているものでございます。

最後、3項目めは裏面になりますね。同じく運営方針の自己評価において「次世代を担う産業創出とは、具体的に何を指すのか」という質問をいただきました。こちらですけれども、ものづくりのまち港区において、後継者不足など課題は見られるものの、事業

者間の連携も進んでいることから、区役所といたしましては、この連携を後押しすることで、社会変化に対応した新たな産業の創出を図り、地域活性化につなげたいと考えております。具体的な取り組みといたしまして、ちょうど今日から1週間前の6月26日に「港産業会青年部会イノベーションポート200」と、港区、当区との間で、事業連携協定を結びまして、地域の課題解決に向けて、連携・推進していくことを確認したところでございます。

以上、事前にいただいたご意見と、当区の考え方についてご説明申し上げます。

○ヴィダル議長 ありがとうございます。ただいまの説明でご質問などないでしょうか。ないようでしたら次に進ませていただきます。

では、次に【当日配付資料⑧】「令和6年度 第3回 全体会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方」について、既にホームページで公表されておりますが、区役所から説明をお願いいたします。

○村上教育担当課長 こんばんは。教育担当課長の村上です。着座にてご説明させていただきます。私から、前回の令和6年度 第3回の区政会議 全体会で意見交換していただきました「青少年指導員活動の活性化」について、説明と報告をさせていただきます。

【当日配付資料⑧】の「全体会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方」をご覧ください。これは区のホームページにも掲載しており、時間の都合もございますので抜粋してご説明させていただきます。左には3部会ごとに意見交換していただいた主なご意

見、1つ右には当日区役所から回答させていただいたもの、さらにもう1つ右の箱には補足等として4つの塊で記載しております。このうち1つ目の塊には、当日それぞれの部会に分かれて、委員の皆様からいただいた主なご意見を今一度まとめております。2つ目の塊には、区としての考え方をまとめておりますが、2つあるポツのそれぞれ文末をご覧くださいただだけでも「さまざまな考え方がある中で、活性化に唯一の正解があるのではなく、区としても悩ましく思っていること」がお分かりいただけるかと思います。行政の考え方を説明したものとしては珍しく、悩ましさを吐露するかたちでまとめさせていただいております。3つ目の塊には、悩ましく思っているけれども、なんとか活性化につながるよう、さまざまなアプローチの仕方で支援してまいりたいと、いわば決意表明をさせていただいております。

ここで資料から離れてのご紹介になりますが、今年度、令和7年度の活動として港区青少年指導員連絡協議会（以下、青少年指導員は「青指」、港区青少年指導員連絡協議会は「区青指」という。）の役員の方から「区民まつりの場に、区青指でブース出展出来ないか」とのご相談をいただいております。本市からの活動交付金の関係で、会計上の取り扱いなどの整理でございますとか、区民まつりの運営上の調整も必要かと思われますので、現時点ではブース出展が叶うかどうかはまだ分かりませんが、区青指の皆さん方が、青指活動を知ってもらうために何か出来ることはないか、自発的に模索されていることにつながったこと自体が、まずは第一歩でございますし、さらにこうした検討段階のこ

とを本日の全体会で紹介してよいか、区青指の役員さんに今回確認させていただきましたところ「青指も頑張っていることを少しでもアピール出来るなら、是非」とのことでした。このように青指の方々が、青指活動の周知に積極的に取り組もうとしていただいていることが、前回の全体会で意見交換していただいた効果であると思っています。また区政会議 全体会での意見交換を通じて、図らずも委員の皆様に、青指活動を再認識していただくことが出来ましたので、引き続き区青指や校下の青指の協議会へのご支援をよろしくお願いいたします。このほか5月9日に開催された「区青指総会」の場で、区長からご挨拶の中でも、前回の区政会議 全体会で意見交換させていただいたことに触れながら、悩ましさと、一方でなんとか活性化したいことを申し上げてまいりました。

青指活動の活性化の成果が、目に見えるところまでは至ってありませんが、少なくとも前回の全体会での意見交換をきっかけに、区役所もまた青指の皆さんも「活性化につなげたい」という思いを新たにしたところです。前回の全体会の振り返りと、その後の進捗についてのご報告は以上でございます。

○ヴィダル議長　ありがとうございます。ただいまの説明で、ご質問などございますでしょうか。

では、今回のテーマ「How to 多文化共生のまちづくり 外国人住民とともによりよい

地域をつくる」について、説明をお願いします。

○宮之前多文化共生担当課長　みなさん、こんばんは。市民局の多文化共生担当課長をしています、宮之前と申します。本日は、議題の参考となるようなデータをご用意させていただいております。座って説明させていただきます。お配りしている資料⑨のほうご覧いただけますでしょうか。左下に、折れ線グラフが描かれていると思うのですが、真ん中がへこんでいるところがあります。これがコロナの時期ですけども、この時期を挟んで左と右でカーブの傾斜が変わっているのが見て取れると思います。これは何かと申しますと、大阪市の外国人住民数の推移でございます。1番右端の数字が、2024年、令和6年度12月末の外国人住民数18.9万人となります。その3ヵ月後の年度末では19.5万人と急激な速度で増えているのが分かります。上から2行目に記載のとおり、大阪市には160の国と地域の出身の方が住んでいらっしゃいます。この数がどの程度の数かということ、1つの参考になるのが、国連の加盟国の数で、現在の加盟国が193でございます。ということからすると、ほとんどのすべての国から、何人かがいらっしゃっていると考えていただけるかと思います。それくらい、多様化が進んでいるということになっています。ここ10年で特に増えているのが、ベトナム・ネパール籍の方で、大体20倍以上に増えています。一方、韓国・朝鮮籍の方が、ご高齢化と共に減っているというのが特徴となっております。次のページ10では、各区別の数字というのも出しております。上から7つ目に港区の数字があるのですが、1番右端の数字が、2.75%となっております。平成25年、今から

11年前の港区における外国人住民の割合でございます。その左側が6.05%となっております。これが令和6年度末の港区における外国人住民数の割合で、2倍以上に増えています。その左側763が令和6年度の1年間で増えた外国人住民数の数でございます。ということで皆さん、ご実感もされているとは思いますが、数値で見ると、改めてご実感していただけるかと思います。今後皆さんが、外国人住民の方々と接する機会、或いはお話しをする機会が益々増えてくることかと思います。昨年と一昨年、港区では南市岡のヴィダル様にご協力いただきまして、全部で4つの地域をモデルケースとし、地域住民の方々と外国人住民の方々が仲良くなれるためのテストケースを色々試行錯誤して実施してもらいました。そして、その中で外国人住民とスムーズに交流出来るためのツールを資料⑩冊子としてまとめております。そのほかに、動画などもつくっております。QRコードを載せており、動画も掲載しておりますので、ご興味持っていただけたら、ご覧ください。本日はその中から港区の動画を見ていただこうと思います。動画をお願いいたします。

～動画視聴 およそ 10 分間～

○宮之前多文化共生担当課長 はい、ありがとうございます。全部を紹介できないのですけれども、中にあった事例の中で1つだけ紹介したいと思います。外国人住民の方も、地域でやってるお祭りとか、みんなでする清掃活動とか参加したいと言っておられる方

が、実は結構いるみたいですが、「参加していいかがわからない」という声をお聞きします。ご覧いただいた動画の中に出ていたのですが、例えばお祭りのチラシなどを簡単に多言語化できますとありましたが、実際に今 Word を前のスクリーンに映し、実演します。Word で作った日本語のチラシがあるのですが、これをスリーステップで簡単に翻訳してくれます。校閲ボタンを押していただいて、そのあと翻訳を押していただきます。もう一度翻訳を押していただき、その後ドキュメントの翻訳、翻訳先の言語で言語の選択ができるので、翻訳したい言語を選び翻訳を押すとスリーステップで翻訳してくれる。少し修正しないといけないかもしれませんが、簡単にできます。外国人住民も自分の国の言葉で書かれていると「ああ参加していいんだな」という気になると思いますので、使っていただきたいと思います。説明のほう以上です。

○ヴィダル議長 ありがとうございます。では各課長に担当部会に入ってください。準備が整った部会から自由にお話し合いを始めてください。

○武内総合政策担当課長 各部会のテーブルに、参考となる資料をご用意してます。ゴミの出し方ですとか、地域活動に関して英語・中国語・韓国語などで作ったチラシを参考に置いております。各部会の話し合いの時間はいったん 20 時とさせていただきます。前に時計がございますのでまた状況を見て、ご案内いたします。いったん 20 時までとさせていただきます。

～意見交換 およそ 30 分間～

○ヴィダル議長 皆さんお話し合いはいかがでしょうか。そろそろ全体会として皆さんの意見を集約していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、すみません、各部会から出された意見、提案などを簡潔に発表していただきます。まずはこども青少年部会についてわたくしからご説明させていただきます。ビデオにも出てましたが、登場人物の中の1人でありまして、もうさすがにご存じの方も多いかと思うんですけども、主人が外国の人間で、南市岡地域がモデル地区になるということで、身近な多文化共生ということで抜擢をいただいて、力及ばずながら色々なイベントに出させていただきました。それも踏まえてなんですけれども、南市岡地域だけに限らず、ネパール料理とか、スリランカとか、インドというか、地域のご家族の方、中学校にも日本語が喋れなかったけど今はちょっと喋れるようになったってそんな女の子も入ってきたりとか、かなり多文化が今進んでいるなというのは肌で実感してる最中でございます。ただその地域の活動の担い手が足りないというところと、外国人住民が増えてきたっていうところで、この部会で話させていただいたのは、担い手が足りないから、外国人住民が増えてきたから、そこに入ってもらおうっていうのではなくて、やはり地域の担い手が減ってきたっていうのは、やっぱりどうしてもどこも高齢化で、やったださってる方々が70代80代とか、まだまだ元気になっていただけてるんですけども、じゃあ10年後20年後にこ

れが同じ状況が続けれるのか、かなり難しい、南市岡自体がかなり厳しくはなっています。ただそこに入ってきました、定住するかどうかもまだ分からないという外国の方に頼むというのではなくて、やはり日本人同士の中でのコミュニティ自体は維持をしつつ、このままどのようにすれば地域活動が続けられるのかというベースに基づいて、やはりそのチラシ翻訳もほんとにボタンで3つくらいで翻訳ができますし、チラシ等でどんな方でも興味を持った方は、敷居高く感じずに入っていただいて参加していただいて、あわよくば多文化共生という形で、気がついたらすごくいっぱい手伝ってくれてるねっていう状態ができれば本来の形なんじゃないかなということで、部会のお話が終わりました。まとまってないですけどこれで以上です。ありがとうございました。

では次に、安心安全・まちづくり部会の山岸議長お願いいたします。

○山岸委員 安心安全・まちづくり部会の山岸です。まず部会の皆さんに、周りの外国人の方との関わり方、「どんなふうに関わられていますか」ということで伺いました。わたしから言うと、たまたまもう引っ越しされたんですけれどもベトナムの方が同じ班に引っ越して来られまして、お菓子を持って挨拶に来てくださいました。うちだけじゃなくてうちの班の何人かに配ってくれたみたいなんですけれども、その方はご夫婦ですごくいい感じだったんですけれども、わたしのほうがその時にご挨拶とともにすぐにゴミ出しの説明をしてしまったんですけれども、そういうところからまずは入っていきまして、1年間くらい一緒に同じ地区で同じ班で生活していただきました。これはわたしの話で、あ

とは皆さんにお1人お1人伺ってみましたら、やはりたくさん周りに中国の方が増えたとか、マンションのオーナーが中国の方に代わられたとか。テレビでそういう放送がされてたみたいですけれども、たまたまオーナーが代わったら家賃が変わったとか、マンションから出て行って欲しいみたいな感じでエレベーターが止まって、住んでる方がちょっと出ていかなければいけないような状況になったっていう話もあったみたいで、オーナーさんが変わられたらどうなるのかなっていう話をちょっと聞いたりもしました。

あとほかには皆さん、それぞれお住まいのところ、働いているところに外国の方が増えて。クリニックにお嬢さんが働かれてる方がいらっしゃって、そこにも外国の方が病院に駆け込んで来られるという話も伺いました。あと、日本語学校のところに生徒さんとして、皆さんすごくたくさん来られて、なかなか「上手な対応が出来てるのか出来てないのか、なかなか難しいようです。」という話を、今この、ほんとに6名の方、7名の方、7人のところでもこんなふうに、すごく外国人との色んな状況を聞くことができたなど思って驚いております。わたしたちのところ、ここは安心安全・まちづくり部会ですので、関わり方としては一番やりやすいのはやはり、防災学習会ですとか避難訓練とか、そういうところから入っていてもいいのかなと思い、こういう話を少しさせていただきました。あともう一つ大事なのはやはりゴミ出しの部分で、八幡屋地域ではコロナ後なんですけれども、ゴミ出しと防災関係で中国の方にも来ていただいて、話し合いをされたっていうのを伺って、そういうところから一歩ずつ始めていくのは素晴らしいこと

だなと思いました。以上です。

○ヴィダル議長 ありがとうございます。では最後に福祉部会の平尾議長、お願いいたします。

○平尾委員 ありがとうございます。福祉部会です。福祉部会は、皆さん共通して、ちょっとずつ外国人の方増えてるなっていう意見がまず出ました。例えば子ども食堂であるとか、あるいは子ども・子育てプラザでもそういう利用者の方が増えているということです。で、うち福祉部会なんで医療関係者がいるんですが、医師の山田委員のところも、確かに一部、そういう患者さんが増えてます。一定増えてるんですけど、中には親御さんが日本語しゃべれなくて、こどもが通訳に来てると。「ヤングケアラーにつながっちゃうのって怖いよね」っていうお話も出ました。そのあとですね、それぞれの国で先ほど安心安全・まちづくり部会でお話があったみたいに、中国人の方がマンションを持ってる。また、コミュニティを作ってるっていうのがうちもありまして、うちでもおんなじようなお話がありましたが、やっぱり外国人の方が一つコミュニティ作っちゃうと関わりを持ちにくいです。だからこそ接点を持ってお互いを理解するべきだっていうことなんです。例えば接点を持つにはどうすればいいのかってお話なんですけど、識字教室とかでチラシを配布したりだとか、あるいは会社から技能研修生みたいな人が多いんで、会社からなんとかこう接点を持つようにお願いしたいとかっていうのはどうかという意見も出ました。あとですね、夏祭りにおいて山車を引いてもらうのはどうかといった意見。

神社の役員の方がどれだけ受け取ってくれるかわからないんですが、きっと日本の文化の祭りをすると言ったら来てくれるんじゃないかと思うんですけど。逆に、向こうの人が区民センターとかで結構イベントみたいなのをやってるんですかね。丸岡さんがそういうような話をおっしゃってたんですけれども、インド人とか沢山いるという話がさっきも出てましたよね。まあでも極論我々が行けない。で、コミュニティのキーパーソンをどうやってつかまえるかっていうのがすごく問題というかテーマやと思いますので、とにかくキーパーソンをつかまえるにはっていうことですが、例えばなんか、やっぱり食事を一緒にできる場ができたらね、食は文化なので。そういうのが出たのと、あと港区はウェルカムなんだよっていうのをどこかで強調すればと思ってます。例えば区民まつりでそういうブースを無理やり作ってみるとかいうのは、どうでしょうかとお話があがっています。以上です。

○ヴィダル議長　ありがとうございました。ほかの部会からのご意見に対してなにかご質問等ございませんでしょうか。特にないようですので、全体を通して、区役所や説明いただいた市民局からコメントなどはいかがでしょうか。

○宮之前多文化共生担当課長　市民局の宮之前です。さきほどのお話し、興味深く聞かせていただきました。、さきほど参加した話し合いで区民の方から楽しいところから仲良くなっていければいいんじゃないかというお話しがあり、「まさにその通りだな」と思いました。これは、西成区の事例ですが、おまつりなどは敷居が低いので、誰もが参加し

やすいのですが、そこに来てくださった御家族連れの中国の方が、お子さんもいて、日本にずっと住むつもりなので、地域の方と仲良くしたいんですと仰っている方がいらっ  
しゃいました。そのかたはその後も定期的にイベントに参加くださり、12月にお餅つ  
きをした時には、その方が、地域の中国語のイベントのチラシを作って「仲間にまくよ」  
と言って下さり、参加する側から、主催者に協力する側、単に参加して楽しむ側から、  
提供する側に回って下さった。そこは上手く行き過ぎの事例かも知れないのですが、さ  
きほど区民の方が、おっしゃったように、言葉が通じない方だけでいうコミュニティを  
作り、交流がないと、地域が分断してしまうような怖さがあるので、楽しいところから  
つながって行って、ちょっとずつちょっとずつ、歩み寄って行くというのが良いのでは  
ないかと思います。ありがとうございました。

○村上教育担当課長　すみません、区役所のほうから補足説明させて下さい。先ほど「区  
民まつりでブースを作る」といったご意見をいただいたところですが、実は、港区の区  
民まつりでは「多文化カフェ」というものを開催しております。その多文化カフェでは、  
こちらの区民センターで毎週金曜日にやっておられる日本語教室に参加されておられる  
外国の方にもお声掛けさせていただいて、そうした方に多文化カフェに来ていただいて、  
区民まつりに来られている日本の方と一緒に「やさしい日本語」で交流していただく  
といったことを区民まつりでも実施しております。また、先ほどのご説明でこちらの区民  
ホールで実施している日本語教室に合わせてのご紹介ですが、港晴地域で今年度、若者

をターゲットにした識字日本語交流教室として教育委員会が「港晴日本語ゆうえんち」という名称の教室を立ち上げておりまして、そうした形で日本語学習を通して日本人と外国の方とが交流していただける場もあることをご紹介します。

○ヴィダル議長　ありがとうございます。そろそろいい時間になってまいりました。本日は市議員の方にも、ご出席いただいておりますので、お一言ずつお願いいたします。

○西議員　どうも皆様こんばんは。大阪市議会委員の西と言います。

9月に委員さんの改選ということで、今日がみなさんの任期といたしますか、最終ということで、熱心にご議論深まりまして、深く感謝申し上げます。

大変大きなテーマというか、多文化共生ということでございますけども、まあ外国人問題と言うか外国問題というような、言い方はすごく多いんですけども、実際は日本人側が受け入れる際どうするか。という問題であるというふうに思いますので、ある意味では日本人の問題といえ、日本人の問題というところにもなってくるかと思います。

それと、さきほど平尾委員からのお話にもありましたけど、1人2人でしたらこれを受け入れるというの感じになるんですが、外国人の方がコミュニティをつくられますと10人、20人、時には100人という単位になっていきます。そうすると集団とかたちの集団同士という言い方をしているのか分からないですけども、そういった意味では、外国人の集団自体も自分らで別に独立してコミュニティがあるわけなので、とくに日本の土地、治安が良いと寄って来るといいますか、交流してくるといいますか、し

なくても良いようなそういうような特徴も出るのかなというような気もしております。

もう1つは経済活動ですね、経済活動といいますか、そういったことで、さきほどお話をした1つがその外国人の方が増えだしたと。今、ちょっと誰かが言ってたんですけども、今、特区民泊ですね。大阪で、もう1番、大阪モデルといわれるくらいですね、あまり良い評判ではないんですけども、そういった外国人の方が、特に営業ビザというかたちで入って来て、そしてペーパーカンパニーみたいなのをして、この日本中、特に大阪の空き家を買って民泊化していくというような事業で今ちょっと社会問題になっておりますけれど、こういったことの経済活動が、より複雑化して来ているというようなことが、それによって外国人を排除するというような風潮が私どもは懸念している次第でございます。そういった意味では多様性、また寛容性を広めていかないと、なにかを排除していくというようなことになると、大変お互いが生きにくい、暮らしにくい状況になるんじゃないかと思っております。またこれからも、世界の皆さんと共に、この問題についても、しっかりと語り合い、理解を深めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございます。

○藤田議員 私からもちょっと簡単に申し上げたいと思います。

まず区政会議のかたちですね、前区長の時からずっと言ってた区役所は1時間以上しゃべって、皆さんはほとんどしゃべらずに帰るっていうスタイルを、なんとか改めてほしいってということでお願いしてまして、山口さんの努力で、こういうかたちにしていた

だいて、本当に皆さんたくさん意見を出していただけるような区政会議になったんじゃないかなというふうに思っていますので、ぜひみなさんも「やってよかったよ」という声、そういう実感ありましたらまたチームの方、区政会議の改選もありますので、お誘いいただきたいかなというふう思っています。

外国人問題は本当に西先生とさっきもずっとしゃべってたんですけども、95%は真面目に日本で生活してる外国人だと思うんです。残りの5%が国保タダ乗り問題とかですね、いろんなそういう問題を起こすのを、またその日本人なのか、その外国人なのか分かんないですけど SNS とかで、ヘイトビジネスといいますか、みなさんその不満と憤まんを煽るようなかたちで再生数を稼いで、お金を稼ぐという方々が、SNS でたくさん拡散しますので、なんかこう外国人によって、日本が食いものにされてるみたいなことが、国民的な感情になってまして、政治の世界で言いますと、極右化といいますか、外国人を排するみたいな政党がかなり躍進してきている状態がちょっと心配だねって西先生と話してました。なのでこういう本当に地に足のついた活動をされている、皆さんのほうから実際の活動の芯っていうのをしっかりやっていただけるというのは、本当にありがたいことだなというふうに思っています。

議会のほうで、1 つだけちょっとみなさんにご紹介したいんですけども、去年の予算委員会で、私も教育こども委員会におりましたので、学校に入ってくる人、日本語の通じないこども達の話をしていただきました。

今までの仕組みでいうと、最初に外国人の方がポンと子ども連れで入って来ますと、2週間程度サバイバル日本語だけをそのセンターでやって、いきなり地域の学校来るんですね。サバイバル日本語というのは、体調悪い時に痛いところ押さえたら「痛い」って言いなさい。とかそのレベルなんです。地域の学校に入って来て何をやるかっていうと、授業の間、座ってて、日本語指導員みたいな人がついたり、つかなかったりするんですけど、学校に通いながらその週に2回くらい、日本語通級指導みたいなところで初めて、えんぴつとかノートとか勉強するんです。逆に言うと、えんぴつも分からない子が学校に入って来てるということで、これ学校の先生ほんとに大変なんです。なので、これを少なくとも海外みたいに、3カ月くらいはしっかりその日本語を日常言語として獲得してから、地域の学校に入れて下さいっていうことにシフトチェンジ出来ないかって議論をかなりしまして、最初のうちは教育委員会もその3カ月間、学校に受け入れないっていうと教育の機会がとかって言うてたんですけど、じゃあ言葉通じないのに3カ月間学校に座らしてたら、教育の機会を与えてるってことになるんですかって言う話をかなりしまして、そういう机上の議論をやめて、大阪で全国モデルから離れて本当に今の実際のかたちに合ったかたちにしていこうということで、来年の予算に検討もしております。そういったかたちで、学校の先生たちから、日本語が通じない子がクラスに入っていると教える時の言葉遣い1つにとってもすごい気を遣うので、本当は日本の子ども達のための学びの深まりっていうことが、なかなか出来にくいですっていうことも聞

いてまして、そういったところからまた保護者の方が、外国人の子いるからうちのクラスの探求の授業がうまく深まってないらしいよみたいな分断につながっていきますので、やっぱりさっき西先生がおっしゃったように、我々の受け入れる側の制度が整っていないことによる不備みたいなものは、しっかり直していかないといけないなど。

外国人って、もともと犯罪しようみたいな奴はもちろんその外国人が悪いんで厳しく取り締まるんですけども、外国人だけが悪いわけじゃなくて、こっちの制度が整っていないということが原因になっていることもありますので、そういうことも議会で改めていこうというふうにやっていきますので、また私でも西先生でもどちらでも、皆さんのほうから「こんな話しあるよ」ってどんどん教えていただいたら、しっかりと対応していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本当に2年間ありがとうございました。お疲れ様でした。

○ヴィダル議長 市会議員の先生方、ありがとうございました。

これで本日のスケジュールは全て終了いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

では、区役所へお返しいたします。

○前田総合政策担当課長代理 ヴィダル議長、議事進行ありがとうございました。

委員の皆様、市会議員の皆様、本日の議事進行についてご協力いただきまして、ありがとうございました。

それでは区長からご挨拶いただいてもよろしいですか。

○山口区長 本日は皆さん、区政会議ご参加いただき、また議論していただきありがとうございました。

そして今回で任期を満了される方、今まで本当にお世話になりました。ありがとうございます。

今日のテーマ、この多文化共生ですけども、あまり長くしゃべる気はないのですが、私の原点というか、そもそも民間人といって、小学校の校長になりたいと思って手を挙げた時に、まったくそんなに外国の子どもってイメージがなかったんですけど、浪速区の小学校に配属になって、行ったら 10 ヶ国にルーツがある子がいた。香港とベトナムから来ました、日本語しゃべれません。中国から 3、4 人一斉に来ましたっていうのを受け入れ、またイスラムの子が来ました、給食がほとんどハラル対応していないので食べられませんっていうような中で、なんとかしなきゃっていうところから、いろんなことをやってきたんです。で、このやさしい日本語っていうマークがあるんですけども、これは学校の校長時代は学校のプリントを全部やさしい日本語に変えたんですね。そこで初めてやさしい日本語っていうのに出会って。そこでこれをやると何が良かったのかというと、外国の子どもとか保護者が、例えば遠足が何か分からなかった保護者が間違えずにちゃんとこう準備できるようになったんですけども、何が一番すごかったって、小学校 3 年生でも読めるレベルの文章に変えたことで、あんまり家で大事にしてもらって

いない子達の忘れ物が激減したんです。自分で読んで、自分で用意できる。日本語が苦手な人に配慮するということは、みんなにとって優しいんだ、ということで、いわゆるユニバーサルデザインの発想みたいなところからこのやさしい日本語のマークを、生野区長になった時も、4月1日に生野区役所行ってびっくりしたんですよ。ものすごい国のたくさんの国の人がいて、もう日本語も英語も聞こえない状態だったのでこれをやらなければって、このマークをその最初の年につくったんですね。で、その時に私はこのマークをつくった時には、柳川市がおもてなしの観点で柳川市のマークもあったんですけども、これに最初その「いくみん」というキャラクターを入れましょうかって言われたけど絶対入れないでって言って、これで私は全国制覇する、万博までになんて言ったのをさっきいろいろ考えながら思い出しました。つまり、増えると思っていたんですね。確実にこの波は来る、ただコロナがあったので一気に減った段階があったんですけど、コロナがあけたら、また増えてきて。彼らはやっぱり日本語を勉強して、日本で仕事したいと思って、学びたいと思っている人がほとんどなので、海外に英語留学している人と一緒に、使いたいんですよ。しゃべりたいんですよ。でも失敗したら恥ずかしいなと思っているから話かけないんですよ。でもこのマークは、やさしい日本語話すよっていう、お店とかにもだいぶ貼ってもらっていたんですけども、下手くそな日本語でもええで、とりあえずしゃべりかけてや、こっちもあわせて頑張ってしゃべるでって言って、地域の方にも、それこそ地域の活動している70代とか80代の方も、このやさしい日本語出前授

業を受けていただいて、で、関西弁使ったらあかんねんとか言いながら、その地元の日本語学校のベトナムの若者たちとしゃべってくれた。彼らが今までかたまりでおったら、どこの国の人か分からんけど怖い人って思っていたのが、ベトナムから日本のスイーツが大好きで、パティシエになるために来ているだれだれさんっていう 1 人で、例えば国に帰ったら、兄弟が多い、そのこともちょっと心配しているけど、今日本で頑張って勉強して、車の整備士になって国に帰ってまた頑張るだれだれさん、1 人 1 人になっていくと思っています。それを経験してきたので、港区に来たら思ったよりもそんなにたくさんの外国の方の比率が、来た当初多くなかったのも、そんなに急いで最初からやるっていう感じではなかったんですけど、ここに来て万博で今働いている、パビリオンで働いている人達が、かなりたくさん港区を選んで住んでいる。将来的に IR ができると増えてきてトラブルも色々出てきているなかで、これは今皆さんと、どんなふうに感じていらっしゃるか、区政会議の委員の皆さんの地域でそれぞれのお立場で感じていることを聞きたいと思って今日このテーマでさせていただきました。そして本当にたくさんの意見をいただきました。

中でもコミュニティごとのキーパーソンをつかまえるとか、その場づくりがカギなのかなと思いましたので、また私も考えますし、皆さんも引き続き考えていただいて地域に持って帰っていただいて、もう対話しかないと思うんです。言葉が通じなくても、やさしい日本語を使ったり翻訳アプリ使いながら、もう 1 人 1 人を人として知るしか乗り越

える方法はないって私は思っていますので、是非とも身近で会う人に、いつも私はコンビニのレジ打ちの方、特に浪速区に住んでいますので、ほぼ外国の方のことが多いんですよ。絶対笑顔でありがとうって言うようにしています。どんなに疲れていても今日もう私笑顔1ミリもないわって思う日でも、やっぱりその、なんていうんだろう、多分冷たい対応をされること多いと思うんですよね、日本語が苦手だから、多分。外国人の人たちを物のように扱ってはいけないとすごく思っていて、もちろん日本のレジ打ちの人にも、もちろんちゃんとしますけれども、しっかり目を見て笑顔でありがとうって言うようにしています。そんなところからでも、できることはあると思いますので、是非広げていただけたらなと思いますし、課題の1つ1つは切り分けて、ゴミの問題だとか、自転車の問題とかも実はあるんですけどいろいろ切り分けて、事実を事実として、そこはしっかり改善していきたいと思います。

今日は、本当にありがとうございました。これで閉会の挨拶とさせていただきます。

○前田総合政策担当課長代理　ありがとうございました。

本日の会議は長時間に及んでいるんですが、最後にわたくしのほうからアンケートのご協力のお願いをさせていただきます。

当日配付資料の⑪番でございます。港区区政会議全体会に関するアンケートと、各部会に関するアンケートということで、2枚アンケートを入れさせていただいております。

今回でご退任いただく方、区政会議委員の方もいらっしゃるんですけども、今後もよ

り良い区政会議の運営のために、また本日のご感想などを含めまして、率直なご意見を、アンケートの用紙でもいただきたいと思います。もしお時間ございましたら、この場でご記入いただきまして、机に置いて帰っていただければと思いますし、本日でなくてもですね、メールで改めてアンケート用紙をお送りさせていただきますので、郵送やメール、ファックスなどでも、すみませんが、回答へのご協力のほう、よろしくお願いいたします。

以上で本日の会議は終了となります。皆様、長時間にわたりまして、真摯なご議論いただきましてありがとうございました。お気をつけてお帰りください。